

## コロナ禍で思う宮沢賢治(4) 芥川龍之介とスペイン風邪(前編)

京都薬科大学 名誉教授 桜井 弘

宮沢賢治(1896－1933)は、明治・大正・昭和の3時代をわずか37年の短い時間で駆け抜け、『風の又三郎』、『やまなし』、『銀河鉄道の夜』、『春と修羅』や『雨ニモマケズ』などの素晴らしい物語や詩を残しました。賢治と同時代に生き、賢治よりも短い35年の生涯を激走した芥川龍之介(1892－1927)は『羅生門』、『鼻』、『蜘蛛の糸』、『トロッコ』や『河童』などの生き生きとした物語を残しました。

二人は互いに面識はなかったようですが、賢治も龍之介もともに1918年からの2年間に猛威を振るった“スペイン風邪”を生き抜いた共通した経験をもっています。賢治は、自らはスペイン風邪に感染しませんでした。が、大学生であった妹トシが東京で感染したため、上京してトシの看病にあたり、その状況を克明に花巻に住む父へ毎日手紙で報告しました。多くの手紙から、賢治がスペイン風邪にどのように向き合っていたかを詳しく知ることができます。一方、龍之介は活発な文学活動中にスペイン風邪に感染し、治癒はしたもののその後2度も再発して苦しい日々を送っていた様子が、先輩や同僚への手紙から知ることができます。賢治も龍之介も残した貴重な手紙から、二人のスペイン風邪への姿勢が伝わってきます。

賢治は花巻で生まれ花巻と盛岡で人生を過ごし、龍之介は東京で生まれ、横須賀、鎌倉と東京で生活をおくりました。スペイン風邪が流行していた時期には、二人とも東京の空の下で生きていました。しかし、スペイン風邪への捉え方は、とても異なっています。

今回は、龍之介はスペイン風邪の中で、どのように日々を過ごしていたかを、彼が残した多数の手紙から2回にわたって紹介いたします。

### 芥川龍之介の生涯

芥川龍之介は大正時代から昭和初期にかけて活躍した短編小説家です。『羅生門』、『蜘蛛の糸』、『トロッコ』や『鼻』などを読まれた方は多いでしょう。「日本の文豪」の一人として学校の教科書にもいくつかの作品が取り挙げられてきました。教育的で芸術至上主義的な作品や、人間が生きていくうえで付きまとう苦悩、エゴイズムや欲望を主題とした作品を、鋭い感性と教養で描いています。

龍之介は現在の東京都中央区明石町で、牛乳製造販売業を営む父新原敏三と母フクの長男として誕生しました。しかし生後7ヵ月頃に母親が発狂し、母親の実家

芥川家に預けられることになりました。

幼少期は教育熱心な伯母・フキによって育てられ、頭の良い子として成長しました。難関な東京帝国大学英文科に進学し、在学中に菊池寛、久米正雄、松岡譲、山本有三らと同人誌の第3次『新思潮』を刊行し、『老年』を連載しました。

1915年10月には『羅生門』を寄稿しています。松岡譲の紹介で夏目漱石を知り、漱石の門下生として他の小説家とも交流し始めます。1916年に第4次『新思潮』に寄稿した『鼻』が漱石から高い評価を受け、自分の作品に自信を持つようになり本格的に創作活動を始めました。大学卒業後は横須賀の海軍機関学校の嘱託英語教授として就職し、鎌倉に下宿しました。しかし、1919年3月に英語教授を退職し、漱石のように小説家・専業作家として大阪毎日新聞社に入社しました。この年に、漱石が49歳で亡くなっています。友人の姉の娘塚本文と結婚し、充実した人生をスタートしました。1921年、海外視察員として中国へ行き帰国した龍之介は腸カタルと神経衰弱に罹ってしまいました。体調が完全に回復することはなく、病状は悪化していきます。さらに1927年の1月には、龍之介の義兄が自殺し、多額の借金を抱えたのみならず、義兄の家族の面倒も見なければならなくなりました。これらの出来事による心痛のためでしょうか、1927年7月24日に大量の睡眠薬を飲んで自殺し、35歳の若さで帰らぬ人となりました。

## 龍之介とスペイン風邪

世界中で6億人の感染者を出したスペイン風邪では、2000万人が亡くなりました。わが国で最初の流行があったのは1918年8月でした。1920年まで3回の大きな感染拡大の波があり、約38万人が亡くなったとされています。龍之介だけでなく、密に会合をしていた多くの作家たちが感染し、中には亡くなった人々もいましたが、龍之介は第1波時に2回、第2波時に1回感染した珍しい経験をしました。第1波の感染は1918年8月から翌年の7月まででした。

龍之介の手紙の中で、はじめてスペイン風邪が登場するのは、1918年の秋から冬へ向かう季節です。スペイン風邪を「スペイン風」と書き、後には単に「風」とか、あるいは「インフルエンザ」や「流行性感冒」と様々に書いています。時系列順に見ていきますが、感染して、高熱が出て、苦しくて体が弱り、床についたが激しい咳に悩んでいる様子がかかれてあります。このころ医師による診察は受けているようですが、詳しくは手紙には書かれていません。本当に立ち上がれない程の苦しさの中では、手紙を書くこともできなかったのではと想像されます。友人たちに感染するから、わが家へは来ては駄目だよとか感染すれば十分に注意するよう警告もしています。そんな中でも、文学者魂でしょうか、苦しさを俳句で表現しています。胸の中で風(木枯らし)が吹きすさび、ゴホンゴホンからヒューヒューと激しい咳となって出てくる情景が浮かびます。感染による死者が出て、お葬式が行われている町の様子もわかります。

### 1918(大正7)年(26歳)の手紙

11月2日 高濱年尾(1900—1979、俳人高濱虚子の実子)宛

僕は今スペイン風でねてゐます うつるといけないから来ちや駄目です 熱があつて咳が出て甚苦しい。

胸中の風咳となりけり

11月3日 小島政二郎(1894—1994、小説家)宛

スペイン風でねてゐます熱が高くつて甚よわつた病中髣髴として夢あり退屈だから句にしてお目にかけます

風や大葬ひの町を練る

まだ全快に至らずこれもねてゐて書くのです 頓首

11月5日 小島政二郎宛

退屈だから又これを書きますお互にこの風はいい加減に御免を蒙りたいもんだ尤もかう云ふ事があるといろんな餘技を窓に出来て便利です今日も床の上で繪を描いたり句を作つたりしましたこの歌もその際の産物です

向つ尾に二もとある松朝焼くる空をいたしと二もとにある松

朝焼のほのめくところ向つ尾の二もと松はゆらくともせず

11月9日 薄田淳介(薄田泣菫、1877—1945、詩人、随筆家)宛

インフルエンザはご用心なさいなつたらちよいとでも無理をしちや駄目ですよ忽猛烈にぶり返します私も起きて一回原稿を書いたんでひどい目にあつたのです島村さんもさうだろうと思つてゐます昨日床をあげました

病中髣髴として夢あり

風や大葬ひの町を練る

ここに「島村さん」と書かれているのは、劇作家・評論家・小説家の島村抱月(1871—1913)のことで、この手紙が書かれた5日前の11月4日にスペイン風邪に罹り急逝した事が記されています。抱月とともに芸術座で活動していた新劇の女優と歌手の松井須磨子(1886—1919)が抱月のあとを追って、2ヵ月後に非業の死を遂げたことは、当時の大ニュースとなりました。

第一高等学校と東京帝国大学を通して親友の一人であった松岡譲がスペイン風邪に感染して肺炎に罹っていたことを人づてに聞いた龍之介は、心配して松岡にお見舞い状を送っています。その中で、相当に厳しい症状で体がひどく弱り死んでしまふかと思い、辞世の句を作つたと告白し、辞世の句を送っています。スペイン風邪で死ぬほど苦しい自分だが、麓の村を眺めると秋晴れの素晴らしい風景が広がっていると、苦しい胸の内と秋晴れの風景を対比させていて、命のはかなさを歌っています。龍之介も松岡もスペイン風邪を生き抜きました。

11月24日 松岡譲(1891—1969、龍之介の親友、漱石の長女筆子と結婚、小説家)宛

君が肺炎で入院したと云ふ事は人が知らせてくれた 当時僕もインフルエンザの  
ぶり返しでひどく衰弱してゐた 辭世の句も作った その位だから遥かに君の病  
氣はどうだろうと氣づかつた (中略) 御互の今度は命拾ひをした方だろうと思  
ふ 僕の辭世の句は

見かえるや麓の村は菊日和

と云ふのだ 今はもうピンピンして原稿を書いてゐる

12月8日 下島勲先生(1870—1947、龍之介と親しく、主治医であり、彼の  
最後を看取った)宛

今日上って御診察を願はうと存じました所朝から人が参りつゞけにて上がる事が出  
来ず不本意ながら是より漱石先生第三忌速夜へ参りそれより鎌倉へ歸る事に致  
します インフルエンザ後少々咳が出つゞけ肺病ではないかと心配しているので  
すがどうも御診察を願はず又一週間教室の白墨の埃を吸ふ事故大いに心細く  
感じて居ります

この手紙では、龍之介はインフルエンザの症状が少し軽くなったようですが、咳が  
続き肺炎を疑って、日頃診察をしてもらっていた下島医師にさらに診てほしかつたと  
伝えています。また、海軍機関学校で講義をしなければならない苦痛を「白墨の埃  
を吸ふ事故」と表し、健康を心配していることをユーモラスに述べています。この手紙  
以後は、風邪が悪化していくような様子は見られないため、インフルエンザはいつた  
ん直つたかと思われまふ。

しかし、新しい年が明け、冬の真つただ中の2月に、再びインフルエンザに感染した  
ことを手紙で書き、床につきながら俳句などをつくりました。

(続く)

[参考] 『芥川龍之介全集』第10, 11巻、1978年、岩波書店。

桜井 弘

日々のできごとはホームページから。いつでもどこでも科学館とつながれます。



広報  
Twitter



学芸  
Twitter



科学館  
YouTube



広報  
instagram